

2016年度経営指針

~Spread 2016~

2016年度は、NEXT10計画の6年目、安定（化）期4年の最終年次にあたります。安定（化）期は、事業継続、財務安定化、普及事業、カテゴリー浸透を目的としています。

私たちは2011年度より始まった諸事業においてその目的を具現化してきました。

選手登録を前提としたシニアチャンピオンシップの開催と全日本選手権等の開催により、シニアカテゴリーの登録選手が増加しているほか、首都圏を中心とする大学生チームが20サークルを超えています。

2014年度には公認指導者制度が発足し、全国で講習会が行われ、2015年度には初となる上級指導者が誕生しました。

競技普及を図るためのおやこドッジすくうるが全国で開催されているほか、協会直轄事業として、地域児童の健康増進を目的とするSMILEドッジスクールが文部科学省の後援を得て開催されました。

主催大会数が増え、競技力が向上する中で、全国で活躍する公認審判員の資質向上を図るブロック別中央研修会、上級審判員資格取得認定会を開催しました。

また、協会広報誌が年2回のペースで発行され、事業の周知が図られています。

2016年度は、強化期移行への準備期間であり、競技人口拡大に向け、各事業を評価し、さらなる改革を進めます。

1 組織基盤の整備

事業規模の拡充に伴い、効率的な運営の必要感が増しています。また、事務局における本来業務以外の作業が増加し、支障が生じています。これらの問題を解決するために、委員会業務の組織、運営を抜本的に見直し、組織全体の機動性を高めるとともに、若手の有望な人材の発掘に力を注ぎ、世代交代を計画的に進めて参ります。

2 財務健全化

協賛企業の撤退による協賛収入の減少、チーム数の減少による会費収入の伸び悩みが今後も見込まれております。本会では、主催大会を維持していくことを最優先に考え、大会組織を抜本的に見直し、人員の削減を断行します。さらに、全国大会を地方で積極的に開催し、開催県協会による主管制度、近隣の県協会による支援体制の確立を図ります。今後は、大会数の見直しも含めた事業規模の検討を進めて参ります。

2016日本代表支援事業として、協会公認商品の開発・販売、新規協賛企業の発掘による資金確保を推進します。

3 指導者育成

2017年度より始まる日本体育協会公認指導者制度の発足準備を推進するとともに、中長期的な視野で指導者育成の目標を立てます。

4 普及振興事業の拡充

行政・民間・他団体との連携をさらに強化しながら普及事業を拡大します。

地方自治体の子育て支援策，健康増進，体力向上施策に参画するため，国，地方自治体との連携を強化し，情報収集，事業提案に努めます。

海岸を利用して行うビーチドッジボール，公園や広場など野外で気軽に行うストリートドッジボール等，新カテゴリーの導入を更に進め，新規競技者獲得を図り，競技ドッジボールへの誘導を推進します。

5 広報活動の充実

年2回発行している広報誌に加え，現行運用しているホームページの構成を見直し，より親しみやすく活用できるものに変更します。

各委員会主催事業

【全国大会実行員会】

- 第26回全日本ドッジボール選手権全国大会
(さいたまスポーツコミッション協力・さいたま市記念総合体育館)
(ミズノスポーツ振興財団助成事業)
- 第26回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会
(西日本産業コンベンション協会協力・北九州市内7月公表)
(スポーツ振興基金助成事業)
- 第3回全日本女子総合選手権
(前橋スポーツコミッション協力・ヤマト市民体育館前橋)

全国からチームが集まるこれらの大会では，地元スポーツコミッション・コンベンション協会の協力により，すでに開催における資金面の不安は大幅な軽減が期待できます。そこで開催地には，開催を機とした新たな活動拠点の基礎を作り，中期的に地元協会自身の発展に繋げることを目指します。

- 2016J.D.B.A.全日本選手権 (このはなアリーナ)

小学生大会と比較した際の弱点を払拭できず，資金面の不足を直接解消可能なアイデアは今年度もありません。

しかし，競技者の瞬発力や体力が最大となるのはこのカテゴリーであり，さらにドッジボールの格闘技としての要素に着目した場合，パフォーマンスを最大に発揮するためには，このカテゴリーを如何に発展させるかが重要と捉えています。

大会としての収支がマイナスになることは計画に含めた上で，競技としての魅力を引き出す方法を探ります。

全国大会及び予選会・各競技会の質を支える事業

【競技委員会】

B級公認審判員認定会
全国9ブロックにて開催します。
予選のみならず，全国大会が各地で

【指導委員会】

公認指導者講習会 (集合学習④)
公認指導者の専門性と資質の向上を図る本事業は2年目を迎えます。基礎段

誘致の声が上がるようになった中で、どの地域でも安定した競技レベルを保つことができるよう、審判技術と競技運営の向上を目指す人材の受験を促し、全体で3000名を超える審判員の継続した底上げを図ります。

試験内容

筆記試験、シャドーイング試験、試合実技試験の3科目

階の資格である準指導員（区分Ⅰ）資格取得者の多い北信越ブロックにて、40名を対象に開催します。

講習会では、

- ①選手の特徴を多面的に捉え、特長を生かした戦術を見つけ出し、将来を見据えた育成。
- ②保護者、スタッフ等を含めた実態・規模にあった運営・経営。を実践する力を身につけるよう、2日間に渡り実施します。

各単元内容

スポーツにおける食事と健康、緊急時の対応、チーム経営計画の作成、計画の立案と実施・評価について、競技力向上のためのトレーニング、選手理解とチームの組み立て、選手のメンタル強化、体力の分析・体力向上のための練習方法

【totoスポーツ振興くじ助成事業】

- 普及委員会・SMILEドッジスクール（東北2会場・九州2会場・親子50組100名）
- 事業委員会・広報紙発行（10月・3月）

上記事業においては、前年度から継続した助成事業として安定した運営を目指します。回数や規模における大きな変更は予定していませんが、その中での発展の要素として、SMILEドッジスクールに於いては食育とのさらなる連携強化及び計画的な参加者募集を、広報紙製作に於いては屋内の主催競技だけにこだわらないドッジボールの楽しさ・気軽さを紹介する記事・話題を優先し、会員以外でも関わる事が可能な紙面製作、にそれぞれ取り組みます。

2016年度の会員登録増等の即効性は見込めませんが、これらの事業の継続により、間接的に競技カテゴリーへ関心を持つ層が常に生まれることを目指します。

【日本代表選手強化・大会派遣事業】

（スポーツ振興基金助成事業）

- 第3回アジアカップ・11月26・27日・香港

書類選考の他に2回の実技選考を経て、大会派遣代表選手を決定します。

（12歳以下カテゴリーについては過去大会成績を考慮しチームを選考）

第1回・第2回と参加したカテゴリーにおいては全て優勝しており、第3回も優勝を目指します。

ただ、資金面では依然として直接の支援を期待できるスポンサーはほとんど無く、助成金と選手自身の負担金で大部分を賄っています。

一方で各地域における学校や保護者会・NPO団体・教育番組等からの教室開催

における普及目的での代表選手派遣依頼は年ごとに増えており、対応できる人材が限られているために調整ができずに見送る例も出ています。

海外へ代表選手団を派遣する意義と価値を改めて評価し、それに見合った各収入のバランスに近づけるよう取り組みます。